

日本近代文学研究

研究内容

「戦時下の太宰治文学研究」

※右の写真上段は、太宰治『津軽』（昭和19年）

太宰治が執筆活動を行っていた時期は、ちょうどアジア・太平洋戦争期と重なっている。検閲等の問題で文学作品が発表しにくかった戦争期においても、その執筆活動は止むことはなく、今なお読み継がれる優れた文学作品を太宰は生み出している。戦争期の太宰文学が何を養分とし、またさらに何に抗い、何に従いながら作品を紡ぎ出したのか。その背景を踏まえながら、作品を読み解く研究を行っている。



地域・産学連携の可能性

「宮城の戦後雑誌研究」

近年、1945(昭和20)年から1950(昭和25)年にかけて東北で発行された雑誌研究をしている。多くの作家が東北に疎開していた(太宰治もその一人)この時期は、敗戦により東京が壊滅状態にあったこともあって、地方から新しい日本をつくろうとする機運が高まっていた。そうした人々の思いが具現化したのが、雑誌発行である。全国的に未曾有の盛り上がりを見せていた地方文化運動を支えた戦後雑誌の実体とはいかなるものかを調べている。

宮城では戦時下に出された『月刊東北』(※右写真中段)を引き継ぐ形で、『東北文学』(※右写真下段)という雑誌が1946年に刊行されている(共に河北新報社刊)。こうした雑誌がいかなる記事を掲げ、どのような文学作品を掲載したのかを今後論文化する予定である。戦後の地域文化研究との連関を視野に入れている。



総合教育センター ナ日本近代文学

高橋 秀太郎 SHIBATA Kenji

准教授、博士(文学)

執筆論文

『文学報国』『月刊東北』における地方／東北表象の消長



KeyWord

日本近代文学、アジア・太平洋戦争、1930・40年代、メディア／文化、太宰治